

5. 予算および主要事業

水産試験場

事業名	平成22年度予算(当初)
水産試験場運営費	20,456千円
試験研究調査費	21,742
(冷水病対策技術開発研究費)	(4,000)
(琵琶湖生態系修復総合対策研究費)	(14,047)
(琵琶湖沿岸環境変動の影響調査研究費)	(700)
(増養殖技術研究費)	(300)
(漁況予報調査研究費)	(1,800)
(漁場環境調査研究費)	(895)
養鱒場運営費	4,308
養鱒事業費	79,900
調査指導費	6,604
職員費	218,396
計	351,406千円

水産課計上分

事業名	平成22年度予算(当初)
水産基盤整備事業費	3,426千円
(漁場環境保全創造事業)	(1,026)
(セタシジミ種苗放流事業)	(2,400)
資源管理型漁業推進総合対策事業費	1,050
水産有害生物対策事業費	2,000
(オオクチバス等外来魚撲滅対策研究費)	(2,000)
養殖漁業振興事業費	2,975
流通加工対策費	1,400
(冷水病・エドワジエラ保菌検査の促進)	(1,400)
ホンモロコ資源緊急回復対策事業	2,565
水産業温暖化対策事業	3,100
(水温上昇が琵琶湖の水産生物に及ぼす影響の解明)	(3,100)
計	16,516千円

平成22年度主要事業一覧

事業名	事業概要
琵琶湖生態系修復総合対策研究	琵琶湖漁業の生産基盤である琵琶湖の多様で健全な生態系を回復させるための調査研究。 生物多様性モニタリング調査 沿岸帯の魚貝類生産機能修復再生研究 ・ホンモロコ繁殖要因の解明研究 ・アユの産卵場偏在の原因究明 ・遺伝的環境ストレス診断法の開発 水産資源造成技術開発 ・水田等水辺利用による水産資源回復研究 ・セタシジミ仔貝初期育成技術開発研究
琵琶湖沿岸環境変動の影響調査研究	漁場環境悪化の原因解明や在来魚介類の湖沼生態系保全機能の評価とその保全システムの開発研究ならびに琵琶湖への汚濁等負荷の状況や環境の動向の継続的調査。 在来魚介類資源の回復による琵琶湖漁場環境改善技術開発研究 漁場環境の悪化実態把握調査 ・農業濁水モニタリング
ホンモロコ資源緊急回復対策事業*	著しく減少したホンモロコ資源を早急に回復させるために実施されている発眼卵大量放流用の天然親魚生産と放流効果調査 天然親魚生産 放流試験・放流効果調査
オオクチバス等外来魚撲滅対策研究*	外来魚をより効果的に駆除する技術や繁殖抑制技術の開発。 効果的繁殖抑制技術開発 内湖での在来魚回復実証試験 蝸集水域での駆除技術開発
アユの冷水病等対策研究	アユの養殖や河川放流で問題となっている冷水病に対する予防・治療対策や新たな疾病であるエドワジェラ感染症対策研究およびこれら感染症の保菌検査。 冷水病に対する抗病性付与技術開発 エドワジェラ感染症まん延防止対策事業 冷水病・エドワジェラ保菌検査の推進
特産マス類資源の保全と活用に関する調査研究	河川生態系に配慮した渓流魚の増殖技術や漁場としての適正利用技術の開発。ビワマスの地域特産種としての開発。 渓流マス類の放流手法に関する研究 高成長系ビワマスの系統保存と特産品化研究
水産業温暖化対策事業*	温暖化による水温上昇や琵琶湖水循環の滞りが重要魚種の産卵・繁殖、成長や生息環境に及ぼす影響調査研究 水温上昇が琵琶湖の水産生物に及ぼす影響の解明 ・イサザに及ぼす影響調査 ・セタシジミに及ぼす影響調査
漁況予報調査研究	琵琶湖で最も漁獲量の多いアユの資源状況把握調査 産卵状況調査 ヒウオ生息状況調査 湖中アユ魚群分布調査
漁場環境調査	琵琶湖の漁場環境を把握するための継続調査 琵琶湖定点定期観測調査

注) *は本課予算